

障害者医療の切り捨て反対！アピール行動 医療費助成制度は障害者のいのちの綱～切り捨てではなく拡充こそ

大阪障害フォーラム（ODF）

大阪府は、重度障害者医療費助成制度の利用料負担の大幅増、65歳以上の障害者等が加入する老人医療費助成制度の廃止を議会に提案すべく準備を進めています。重度障害者医療費助成制度は、障害者のいのちと暮らしを支える大切な制度です。大幅な後退・改悪は、障害者の暮らしを根底から脅かすものであり、とうてい容認することはできません。すでに乳幼児・ひとり親医療費助成は現行制度の存続を決めました。障害者医療費助成も同様に現行制度を維持した上で、精神障害・難病を対象とすべきです。

大阪障害フォーラム（ODF）は、大阪府下で活動する幅広い障害者団体が一同に集まる組織として、重度障害者医療費助成制度をめぐる次の三点を一致点として運動を進めてきました。そして本日その実現を求め「共同アピール行動」を行っています。

1. 医療費の自己負担額を現行の2～3倍に増額する案は、障害者の生活を直撃し受診の権利を奪う問題であることから到底認められない。大阪府は、制度維持に必要な財源を確保したうえで、これまでの制度を後退させることなくその拡充・発展を図ること。
2. 精神障害者・難病患者にその対象を拡大することは当然のことであり、両障害が障害者基本法等で障害者に位置付けられてもなお制度から排除されてきたことにこそ問題がある。精神障害者・難病患者を対象に加える改善措置を早急に講じること。
3. 今回の見直し当事者を抜きにして検討されてきたことは大きな問題である。この制度の今後の在り方も含め、障害当事者や専門家等の意見をしっかりとくみ上げるための審議機関を組織して、十分審議を尽くした上で慎重に政策決定を行うこと。

私たちはあらためてこの一致点をもとに、障害者を狙いうちにした制度の改悪・後退を許さず、重度障害者医療費助成制度を拡充・発展させて、障害者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、引き続き粘り強く運動を進める決意です。

2017年1月24日

大阪障害フォーラム アピール行動参加者一同